

細胞膜と細胞、ヘマクリットス細胞から、ゼータ関数との 分解過程の数式

Masaaki Yamaguchi

以下は、ヘマクリットス細胞から、切断としての細胞を取り出す方程式である。

$$\pi(\chi, x) = \prod_M \chi(x)[dI_m] = \int_M \chi(x)[dI_m]$$

$${}^t \prod \text{cohom} D_\chi[I_m]$$

$$[Df] = \int_M f(x) dx_m$$

これらは、超関数としての D-brane を一次独立として、ゼータ関数と量子群へと分ける。

$$\|ds^2\| = \int \delta(x) f(x) dx$$

$$D(\chi, x) = \pi \int r^2 dr$$

$$D(\chi, x) = \pi \int r^2 dr$$

父方と母方への遺伝子の対を一次独立で、ゼータ関数として求める。それらも、量子群から導かれる。

$$L(s) = \prod (\Delta, x^\nabla)^{\oplus L} (\chi^\nabla)^{\otimes L}$$

$$\bigoplus \nabla M_\pm^+ = {}^t \prod_{D(\chi, x)} \text{cohom}[I_m]$$

3次元多様体を接線でゼータ関数として求めて、その均配を求めると、5次元多様体となる。

$$\bigoplus \nabla M_\pm^+ = \sum a_k f^k / \zeta(s)$$

$$\Psi = \frac{\nabla_i \nabla_j^\tau}{\nabla_\chi} [I_m]$$

$$\begin{aligned}
& \frac{[I_m]}{d\chi} \rightarrow [\Psi^\nabla]|_{I_m} \\
& \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \\
& = \lim_{\theta \rightarrow 0} \begin{pmatrix} \cos \theta & \\ \sin \theta & \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \theta & 1 \\ 1 & \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \sin \theta \\ \cos \theta \end{pmatrix}
\end{aligned}$$

ベッチ数を同値類に大域的微分にして、不変量を求めて、そのエントロピー値を1変数を大域的微分として、不変量にして、まとめて、ゼータ関数を宇宙と異次元に分ける。

$$\pi(\chi, x) = \iiint_{D(\chi, x)} \text{Hom}(\chi, x)[I_m]$$